



「県政運営の基本方針2012」について

平成23年4月
戦略企画チーム



基本方針2012

- 昨年度、「ひろしま未来チャレンジビジョン」で描いた、概ね10年後の将来像を念頭に、県政を取り巻く環境の変化や重点施策の取組状況を見極め、ビジョン実行2年目となる2012年度に取り組むべき重点戦略とその実行体制の強化に向けて、取組の基本方向を明らかにする。

これまでの主な取組

2010年

1月 広島県経済財政会議の設置

第1回 行財政の課題

4月 第2回 行財政計画の論点整理

6月 第3回 基本方針論点整理, 人件費マネジメント

8月 第4回 基本方針方向性, 財政収支見通し等

10月 第5回 基本方針(骨子), 財政健全化計画等(骨子)

12月 第6回 基本方針(案), 財政健全化計画等(案)

計画策定

- 「中期財政健全化計画」(H23~H27)
- 「行政経営刷新計画」(H23~H27)
- 「県政運営の基本方針」(H23)

(主な中長期計画の策定)

2010年

- ひろしま未来チャレンジビジョン(10月)
- 農林水産業チャレンジプラン(12月)

2011年

- 瀬戸内 海の道構想

(今後の予定)

- 産業振興ビジョン

今年度の審議スケジュール

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
■ 経済財政会議	第1回 (4月22日) ➤ 審議スケジュール ➤ 基本姿勢	第2回 (5月20日) 県庁改革	第3回 (6月10日) 人づくり	第4回 暮らし・地域	第5回 経済成長	第6回 ➤ 基本方針 (骨子)	第7回 ➤ 基本方針 (案)	基本方針
➤ 県庁改革		・組織力強化 ・戦略的広報等					↓	↓
➤ 人づくり分野			・人が集まり 定着する環境整備等				重点施策の方向協議	重点事業協議
➤ 暮らし・地域分野			・医療, 子育て, 防災, 環境 ・都市, 中山間, 平和貢献等					
➤ 経済成長分野					・新たな産業, 観光 ・産業人材, 就労等			
□ 政策マネジメント			←..... ・22年度施策の成果検証 ・23年度施策の進捗管理→			←..... 事業レビュー→		



I 県政運営の基本姿勢

■ ビジョン実行2年目 ⇒ 成長を加速させる広島

(論点メモ)

- 昨年度は、概ね10年後を展望した未来チャレンジビジョンの策定をはじめ、中長期の計画策定や経営戦略機能の強化など、政策の実現に向けた「仕込み」と行政経営の基盤づくりを進めてきたところ。

- 今年度は、これをベースとする県政運営の基本方針に基づき、「人づくり」と「経済成長」の重点2分野や「暮らし」、「地域」の重要な施策について計画を実行に移すとともに、成果指標の設定や目標管理、これに続く評価制度の導入など、事業を効果的に推進していくための全体的な仕組みが動き出すこととなる。

- こうした状況を踏まえ、来年度は、この取組を一段と加速させるべく、これまでの礎づくりに加え、その先に起こりつつある環境変化や広島の将来を見据えた上で、県民が希望を見出し、取組の成果を強く実感できるよう、着実に布石を打ちながら政策の社会的価値を一層高める。



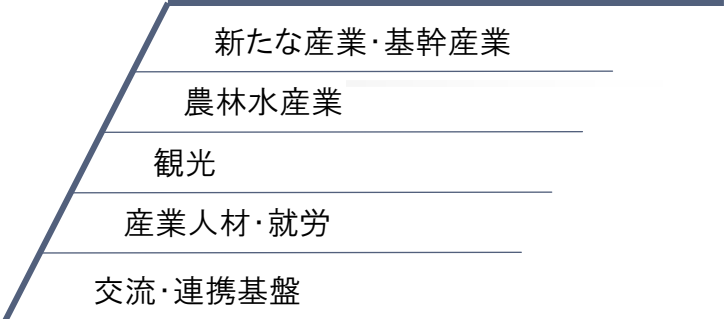
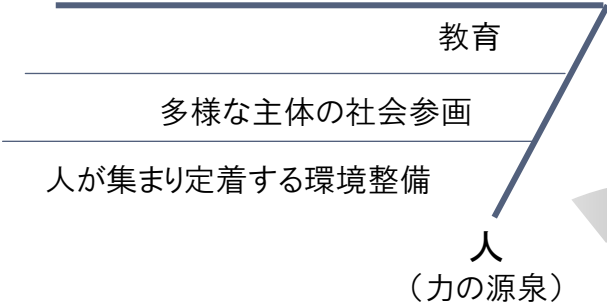
Ⅱ 重点戦略に向けて

- あらゆる分野の力の源泉となる「人づくり」と雇用や所得を生み出す「経済成長」を通じて、生活の新たな「安心」や地域の「豊かさ」が形成され、その活力が更に新たな「人」や「経済成長」を生み出す【4つの政策分野の好循環】が、継続的に起こっていくことが重要である。
- これらの「好循環の加速化」に向けて、①今年度取り組む事業群が各政策分野の取組方向に沿った最適なものかどうか、②新しい時代の流れや環境変化を踏まえ、重点化すべき取組をどのように考えるべきか、という2つのファクターから状況を分析し、4つの政策分野の事業連鎖を念頭に、更なる成長を加速させるための施策に重点化を図る。

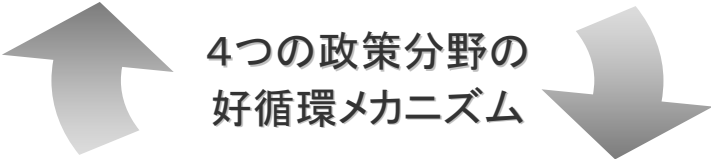
4つの政策分野と取組の事業領域

新たな経済成長

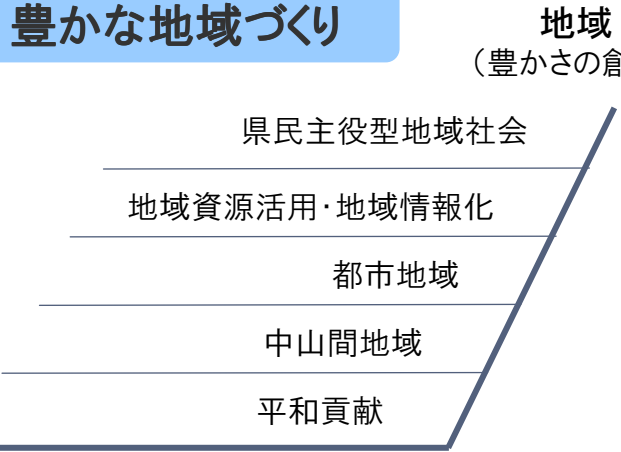
人づくり



経済
(活力のエンジン)



豊かな地域づくり



暮らし
(安心の確保)

安心な暮らしづくり



社会経済情勢を巡る論点メモ

■ 東日本大震災

- ✓ 危機管理 ⇒ 防災体制, インフラ, BCP
- ✓ 復興 ⇒ 機能の移転・分散
- ✓ 原発 ⇒ エネルギー転換の議論
再生可能エネルギーの普及
- ✓ 地域経済に与える影響

■ 消費動向

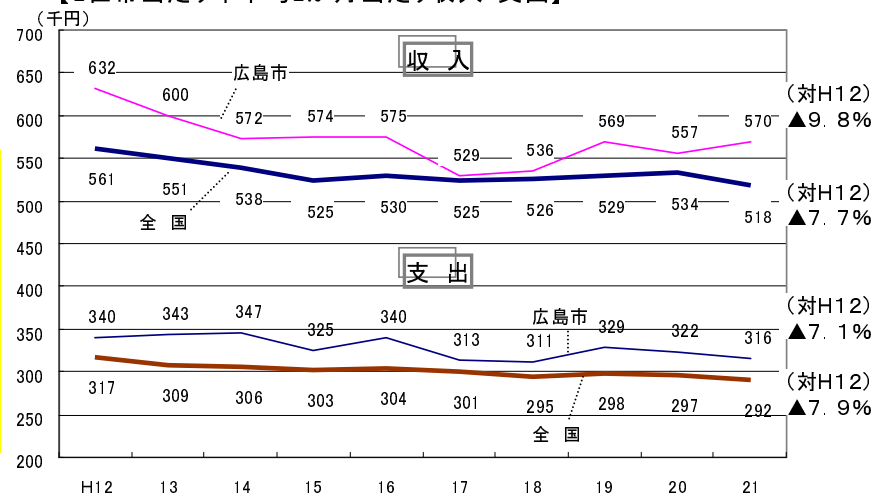
- ✓ 10年間で収入・支出とも1割弱の減少
- ✓ 震災によるマインドの更なる萎縮
⇒ イノベーションによる雇用創出

【被害の概要】

	阪神淡路大震災	東日本大震災
死者・不明	死者 6,434人 不明 3人	死者 13,802人 不明 14,129人 (H23.4.17現在)
被害額	9.9兆円	16~25兆円 (内閣府推計値)
復興資金	16兆円 (10年間)	

出所) 阪神淡路大震災関係は兵庫県発表, 東日本大震災関係は新聞報道

【1世帯当たり年平均1か月当たり収入・支出】



出所) 総務省家計調査

(震災後の県経済の動向)

- ✓ 個人消費で、震災の影響による消費マインド後退の懸念
- ✓ 震災による部品調達難で、自動車産業を中心に生産活動は停滞傾向
- ✓ 震災による生産・消費活動の停滞が、雇用・所得面に波及する懸念

<日銀短観23/3月調査業況判断DI(広島)>

(%ポイント)

	22/3月	6月	9月	12月	23/3月	前回 予測との差	今後
全産業	▲27	▲13	▲10	▲9	▲7	10	▲18
製造業	▲22	▲2	▲2	2	4	15	▲10
非製造業	▲32	▲24	▲15	▲19	▲17	7	▲24
大企業	▲19	▲8	▲2	▲4	▲6	▲2	▲7
中小企業	▲33	▲19	▲15	▲14	▲10	16	▲25

(資料)日本銀行広島支店 (注)「良い」-「悪い」

【震災による県内個人消費への影響】

観光関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内に加えて、原発事故によるイメージ悪化から外国人観光客のキャンセルも発生 ・ 九州新幹線開通による九州方面からの観光客もキャンセルが相次ぐ ・ 宮島のホテル、旅館では、震災直後からキャンセルが相次ぎ、資金繰り相談も発生 ・ 市内主要ホテルでも国内外からのキャンセルが発生
スーパー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食料品や住居関連品は、震災特需の異常値で対前年増加(缶詰+30%, 米+20%, ラーメン+50%)
コンビニ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災の影響で、原料や包装の供給が滞り、おにぎり等50アイテム近くが発注不能となり、1日あたり約2万円の売上げ減 ・ JTがタバコの製造・供給を一時中止

■ 中国の台頭

- ✓ 中国のGDPは世界第二位に
- ✓ 東アジア域内での生産ネットワークの構築

⇒ アジアとの協働
対中ビジネス戦略の強化

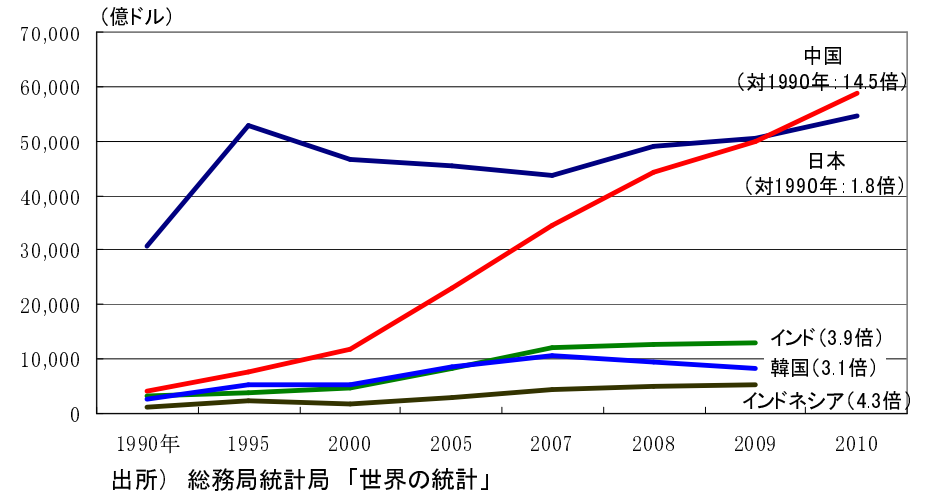
【対中国輸出額の推移】

	全 国	広島県
1990年	9,134億円(—)	210億円(—)
2000年	3兆5,082億円(3.8倍)	694億円(3.3倍)
2005年	9兆3,382億円(10.2倍)	2,391億円(11.4倍)
2009年	11兆3,101億円(12.4倍)	2,972億円(14.2倍)

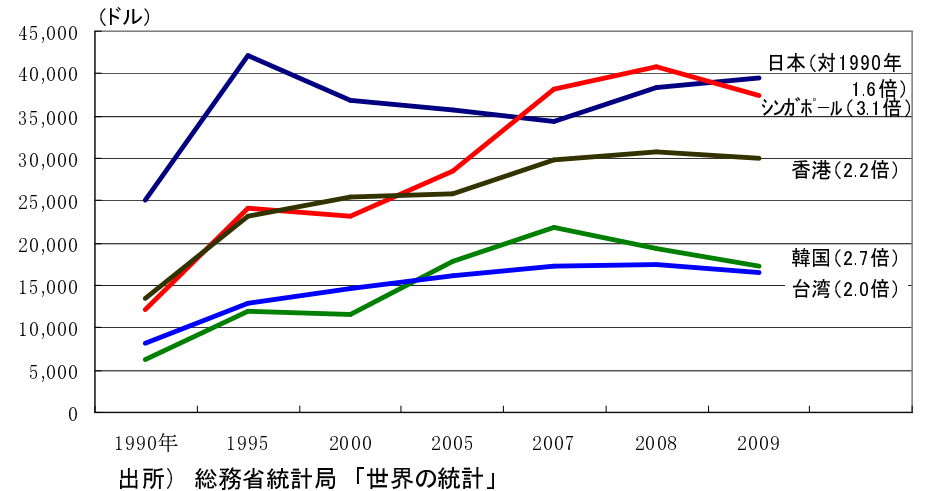
※()は、1990年の輸出額との比較

出所) 財務省 貿易統計

【アジア各国のGDPの推移】



【アジア各国の1人当たりGDPの推移】



■ 労働力人口の減少の加速

✓ 団塊世代が65歳に差し掛かる2012年以降、労働力人口の減少は加速

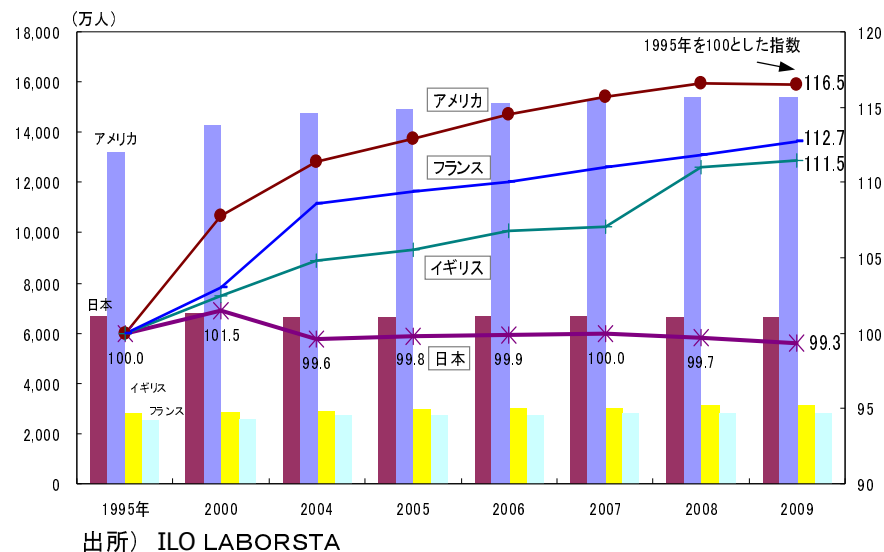
⇒ 成長を支える産業人材の育成
 女性の職場進出や子育て支援
 イノベーションの創出を視野に入れた
 海外高度人材の受入れ促進

【子育て世代の女性の労働力率】

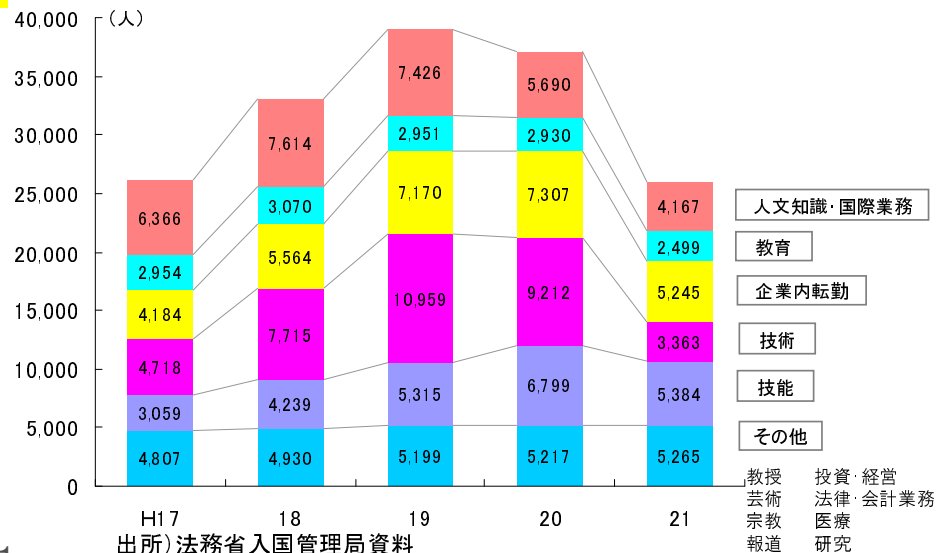
	（％）			
	フランス	ドイツ	日本	広島県
25～29歳	78.4	73.5	71.6	74.3
30～34歳	78.9	74.4	61.6	63.9
35～39歳	81.4	78.7	62.3	66.0

出所) 広島県以外の数値は「子どもと家庭を応援する日本」
 重点戦略会議資料（平成17年データ）
 広島県の数値は総務省「平成17年国勢調査」を基に算出

【主要先進国の労働力人口の推移】



【海外高度人材（興行を除く13分野）の新規入国者数】



Ⅲ 組織力の強化に向けて

- 日々刻々と変化する社会経済情勢を見極めながら、柔軟性とフレキシビリティを持って着実にビジョンを実現していくためには、成果重視の行政体質を確立し、組織パフォーマンスを最大化していくことが重要。

組織パフォーマンス：組織活動が生み出す成果

- 職員の行動理念をはじめとするこれまでの取組に加え、今年度は、「行政経営刷新計画」に基づく目標管理評価などの仕組みもスタートすることとなるが、組織を構成する様々な要素がお互いを補い、全体で最大の力を発揮していくために、更にどのような取組が必要か。

組織を構成する重要な要素

(マッキンゼーの7Sモデル)

優れた組織とは

- ・ ソフトの4つは価値観が絡む要素であるため慣性が働き、強制的または短期的に変更することは難しいとされる一方で、ハードの3つは変えようとする意思やプランがあれば、変更することが可能である。
- ・ 重要なことは、ソフトとハードが融合し、なおかつ整合した中で、各要素がお互いを補い、強め合いながら、全体で最大の力を発揮して戦略の実行に向かっていること。

ソフトの4S

- 共通の価値観・理念 (*Shared value*)
- 経営スタイル・社風 (*Style*)
- 人材 (*Staff*)
- スキル・能力 (*Skill*)

ハードの3S

- 戦略 (*Strategy*)
- 組織構造 (*Structure*)
- システム・制度 (*System*)